

『禅のこころ-曹洞宗-』

けいざん
瑩山さま

平成29年10月第2週放送

大本山そうじじ總持寺を開かれたけいざん瑩山さまは、1325年の八月十五日にお亡くなりになりました。太陽暦に換算すると九月二十九日となりますので、大本山總持寺では、毎年十月十二日から十五日までの間、總持寺にそ二祖のがさん峨山さまと共にほうおん報恩のご供養を行っております。

曹洞宗では、りょうそ両祖さまとして、中国から日本へとお釈迦さまの教えを伝えたどうげん道元さまとともに、けいざん瑩山さまを、日本の国内で禅を弘め今日の曹洞宗のいしすえ礎を築かれた方として仰いでいます。

瑩山さまは、1268年現在の福井県に生まれます。幼い頃の名はぎようしやう行生といい、観音さまを深く信仰する母のもとに育ちました。

幼い頃から出家の思いが強く、八歳の春に永平寺にのぼり、十三歳にて永平寺二祖えしやうの懷とくど奘さまについて得度し、正式に僧侶となりました。二十八歳で依頼によって現在の徳島県じやうまんじに城満寺を開き、広く仏さまの教えを知ってもらうため、多くの人々にかい仏様の戒を授けていかれます。この後、師匠のちの義介ぎかいさまの後あとを嗣いで、現在の石川県大乗寺たいじやうじの住職となり、さらにはじやうじゆうじ浄住寺を開き、次いで能登ようこうじに永光寺を開きます。そして、1321年に能登の真言律宗のもろおかでら諸しよ嶽寺しょくさんそうじじを譲り受け、諸嶽山總持寺とあらためます。これが、現在横浜の鶴見にある大本山總持寺の始まりとなります。

瑩山さまが開かれたそれぞれのお寺は、そのあと後を多くの弟子がしっかりと守り、弟子それぞれが全国に教えを弘めて行くこととなります。しかし、お寺がその地に根付くには多くの人々の信仰がなくではなりません。

瑩山さまが、自分が亡き後も永光寺において未来永劫にわたり守るべきことを示した『じんみらいさいおきぶみ尽未来際置文』には、

「信仰の篤いあつ檀信だんぜつ徒が信心を持続しうる限り、仏さまの教えは断絶しない。そのために、出家者は普段ほとけ仏に接しているように、檀信徒に接しなければならない。」とあり、「出家者も檀信徒も、魚が水の中を泳ぐように自然に交わり、遠い未来まで肉親をいたわるように、お互いを思い合うようにしなさい。」と説かれています。

このような瑩山さまの檀信徒を大切にすることは、多くの弟子に受け継がれ今に到り、現在の私たちも大切にしているのです。

— 終 —